

「第31回京都府文化賞」の受賞者の決定及び授賞式の開催について

平成25年1月7日

京都府文化環境部

文化芸術振興課

(奥谷課長075-414-4216)

(千歳副課長075-414-4219)

京都府では、昭和57年以来、毎年、京都の文化の振興・発展に功績のあった方等を顕彰しておりますが、第31回（平成24年度）京都府文化賞受賞者を別添のとおり決定し、下記のとおり授賞式を執り行いますのでお知らせします。

記

<授賞式>

- 1 日 時：平成25年1月29日（火）午前11時から11時45分まで
- 2 会 場：京都府公館「レセプションホール」
京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1 電話075-441-1414
- 3 出席者：受賞者及び同伴者、来賓（過去の受賞者等）（約120名）

第31回京都府文化賞受賞一覧

	分 野	氏 名	年 齢
特別功労賞 (5 名)	華道家	いけの ぼう せん えい 池 坊 専 永	79
	生態学者	かわ な べ ひろ や 川 那 部 浩 哉	80
	社会学者	さく た けい いち 作 田 啓 一	90
	染織工芸家	なか い てい じ 中 井 貞 次	81
	幹細胞生物学者	やま なか しん や 山 中 伸 弥	50
功 勞 賞 (8 名)	歌舞伎俳優	かた おか あいの すけ 片 岡 愛 之 助	40
	日本画家	くろ みつ しげ あき 黒 光 茂 明	66
	大蔵流狂言師	しげ やま あきら 茂 山 あ き ら	60
	写真造形作家	すず か よし やす 鈴 鹿 芳 康	65
	陶芸家	たき ぐち かず お 滝 口 和 男	60
	染色・美術造形作家	みつ はし じゅん 三 橋 遵	58
	料理人	むら た よし ひろ 村 田 吉 弘	61
	現代美術作家	ヤノベ ケンジ	47
奨 励 賞 (5 名)	やきもの作家	うえ だ じゅん べい 上 田 順 平	34
	美術家	おお にし のぶ あき 大 西 伸 明	40
	茶道家	せん そう おく 千 宗 屋	37
	歌人	なが た こう 永 田 紅	37
	チェリスト	ふる かわ のぶ お 古 川 展 生	39

(氏名五十音順)

※ 年齢は、授賞式(平25.1.29)現在を表記

第31回京都府文化賞受賞者紹介

受賞者の特徴等	<p>○平成24年ノーベル医学生理学賞受賞の山中伸弥氏、平成24年に550年という節目を迎えた華道池坊45代家元の池坊専永氏が特別功労賞を受賞。</p> <p>○功労賞は、現代美術、日本画、舞台芸術、陶芸、写真、料理など幅広い分野の方々が受賞。料理人の村田吉弘氏は、平成18年受賞の高橋英一氏に次いで、料理人としては二人目の受賞。</p> <p>○奨励賞は、やきもの作家の上田順平氏のほか、チェリストの古川展生氏、茶道家の千宗屋氏など、幅広い分野から、現在活躍する新進の芸術家が受賞。</p>
---------	--

	氏名	年齢	受賞者紹介	
特別功労賞	いけのぼ せんえい 池坊 専永	79	華道家	華道家元45世。いけばなの伝統・こころを守り伝えながら、従来の決まり事や形式にとらわれない「新風体」を提案し、常識を越えた形に品格と美しさを表現。いけばなを通じた国際交流にも積極的に取り組み、国内外で広くいけばなの指導・普及に努める。
	かわなべ ひろや 川那部 浩哉	80	生態学者	生物間の相互作用による生態的地位の変化や「競争的協同」や「協同的競争」といった共生の存在を明らかにし、生態学の発展に大きく寄与。さらに「人と自然の共生」という自然科学と社会科学の融合に迫った。
	さくた けいいち 作田 啓一	90	社会学者	人間学としての社会学をベースにしながら、哲学、文学、精神分析の諸分野にわたり、精力的に総合的な人間知を追究し、学術の進展に貢献。
	なか い ていじ 中井 貞次	81	染織工芸家	藍を主調色とし、濃淡と他の植物染料を加えて作られる緑色、紫色などとの透明度の高い色調により、具象と抽象を巧みに融合させた作品を制作。その造形性が高く評価。
	やまなか しんや 山中 伸弥	50	幹細胞生物学者	平成18年、世界で初めて、マウスの皮膚から様々な組織に育つ万能細胞(iPS細胞)をつくることに成功。平成24年ノーベル医学生理学賞受賞。
功労賞	かたおか あいのすけ 片岡 愛之助	40	歌舞伎俳優	伝統的な歌舞伎に新しい要素を加えた新作歌舞伎にチャレンジ。上方歌舞伎を愛し守り続ける役者として上方からの発信を意欲的に続ける。
	くろみつ しげあき 黒光 茂明	66	日本画家	優美な装飾性を受け継ぐ作風で情感あふれる日本画の世界を展開。近年の新たな取組として、9メートルに及ぶ壁画制作など未知の創作にも挑む。
	しげやま あきら 茂山 あきら	60	狂言師	古典狂言のみならず、落語とのコラボレーションや新作狂言などにも挑戦。英・米など国境を越えて展開し、狂言の普及に力を注ぐ。
	すずか よしやす 鈴鹿 芳康	65	写真造形作家	ピンホール写真による独自の表現方法で、海や太陽など自然界を写し撮る。近年は、バリ島に構えたアトリエを拠点に、日本の稲作文化とのつながりを探求。創作活動の他、後進の指導、育成にも力を注ぐ。
	たきぐち かずお 滝口 和男	60	陶芸家	土と手の表現により、言葉で表すことが難しく再現することが出来ない形を具体化する一方、「言葉」からイメージする形を表現。多くの人にやきものへの興味を持ってもらえるよう韓国やフランスでも個展を展開。
	みつはし じゅん 三橋 遵	58	染色・美術造形作家	美しい染め布と紙、木、石などの自然素材により自在に立体表現する。水によって巡る生命の循環など自らの世界観を表現。
	むらた よしひろ 村田 吉弘	61	料理人	「食」を通じた社会貢献が料理人の使命として、日本料理に込められた日本のこころと文化を国内外へ発信。
	ヤノベ ケンジ	47	現代美術作家	東日本大震災後の復興のシンボル「サン・チャイルド」や、「アトムスーツプロジェクト」などオリジナリティかつ社会性あふれる作品を次々と発表し、注目を集める。
奨励賞	うえだ じゅんべい 上田 順平	34	やきもの作家	日本の伝統や大衆文化をモチーフにした作品を陶磁器により制作。装飾を排し、要素を絞って形態を単純化した創作など、常に新しい試みにチャレンジ。
	おおにし のぶあき 大西 伸明	40	美術家	日常に存在するありふれたモノや動植物を樹脂で等身大に再現し、創作の価値そのものを問い直す試みを続ける。映像作品など他ジャンルの創作にも意欲的に挑戦。
	せん そうおく 千 宗屋	37	茶道家	武者小路千家15代次期家元。現代の暮らしにあった形を工夫し、茶の湯の普及に邁進する一方、教育や理論面からも茶の湯文化を追究し、国内外へ発信。
	ながた こう 永田 紅	37	歌人	何気ない日常の出来事や風景から言葉をつかみとり、31文字で無限の広がり表現する。京都大学で細胞の研究に携わり、作歌と研究の両立をめざす。
	ふるかわ のぶお 古川 展生	39	チェリスト	東京都交響楽団首席チェロ奏者。ピアノ、尺八とのユニット(KOBUDO—古武道—)を結成するなどクラシック音楽の基本を守りながら、新たな創造の世界を広げている。

(年齢は受賞日現在)